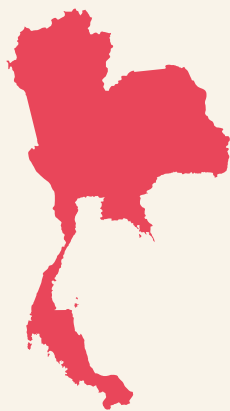


THAILAND

EDUCATIONAL TRAVEL GUIDE



タイ教育旅行ガイド





グローバル社会を 生きる学び

教育旅行が育む国際的視野をタイで

現代の社会では、「グローバル」という言葉が日常的に使われています。これは、単に国家間の関係（インターナショナル）を指すのではなく、国境を越えた人・文化・情報のつながりを視野に入れた地球規模（グローバル）の視点で国際化を考える必要性が高まっていることを意味しています。

このような時代背景のもと、学校教育においても、グローバル社会に適応できる人材の育成が重要な課題となっています。求められているのは語学力の向上だけでなく、異文化理解力やコミュニケーション能力を伸ばし、自国文化の理解を基盤とした世界的な視点で課題に向き合い、解決に向けて取り組む力です。

こうした力を育む場の一つが、海外教育旅行です。デジタル技術の進展によって世界の情報が瞬時に得られる時代ですが、現地でのリアルな体験はそれ以上に深い学びと感動をもたらします。現地の同世代との交流は、参加者の視野を広げるとともに、自らのキャリア形成や生き方を見つめ直すきっかけにもなるでしょう。

異文化体験や学校交流、SDGsに基づく社会活動の実践という観点からも、タイは教育旅行の目的地として非常に適した国です。タイ社会には多様性を受け入れる文化が根づいており、多文化共生の理念が広く浸透しています。また、各都市には高水準の宿泊施設や交通インフラが整い、日本の主要都市からのアクセスも良好です。

本ガイドでは、タイにおける教育旅行の特色や具体的なプログラムを紹介するとともに、これまで実施された高校や大学の事例、参加者および引率教員の声なども掲載しています。これからのグローバル人材を育てる実践の一助となることを願っています。



Contents

- P2 タイ教育旅行のポイント
- P3-4 タイでできるプログラム
- P5 タイの学校事情
- P6 Beyond the CLASS
- P7-10 [実施例] 高校
- P11-14 [実施例] 大学
- P15 タイの基本情報



[6 タイへの教育旅行の つのポイント]

修学旅行や研修旅行先を実施するうえで
タイの魅力とは何なのでしょう？
以下6つのポイントにまとめました。



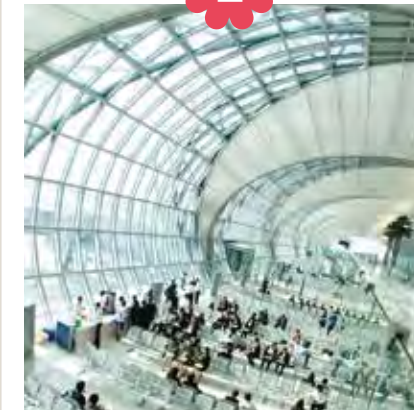
1



安心・安全な環境

観光立国として治安や衛生面に力を入れ、主要観光地にツーリストポリスを配置。年間を通じて温暖で年間約4千万人の外国人観光客がタイを訪れています。日本語に対応する施設も多く、都市の医療水準が高いのも安心。

2



アクセスの良さ

タイ・バンコクへは日本の7空港（羽田、成田、関西、中部、福岡、新千歳、那覇）から直行便が運航しているほか、経由便でもアクセス可能。所用時間は約6時間。時差は2時間しかありませんので時差ぼけの心配もありません。

3



リーズナブルな費用

タイは物価が比較的安く、現地にかかる費用が抑えられるのも魅力。食費、交通費、宿泊費、土産代なども日本より安価にすることが可能です。欧米諸国や他の地域と比べて費用を抑えながら、充実したプログラムを提供できます。

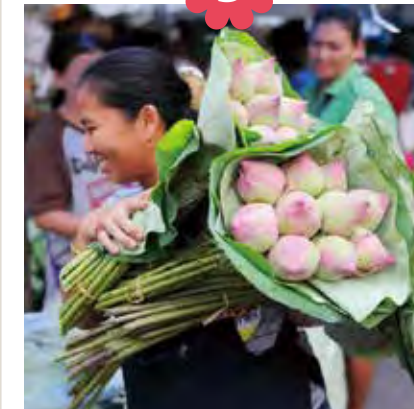
4



学校・生徒間の交流

現地の学校で交流プログラムが可能。英語や日本語を選択できる学校もあります。タイのボランティア大学生と行動を共にするB&S（ブラザー&シスター）研修は、同世代との対話を通して「異文化共生」を肌で感じられる機会です。

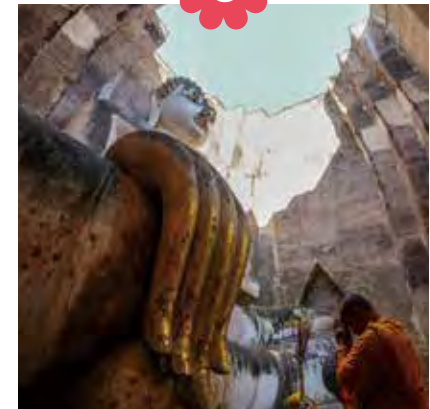
5



交流の歴史深い親日国

アユタヤ王朝時代に山田長政が築いた架け橋、皇室と王室の敬意に満ちた友好関係が両国の心をつないできました。タイには在留日本人や日系企業も多く、他に類を見ない親日国。信頼と尊重に基づいたパートナーシップが息づいています。

6



世界遺産など豊富な学習素材

東南アジアで唯一、植民地支配を受けずに独自の文化を育んできたタイ。王朝の歴史を伝える世界遺産、伝統工芸、ローカルコミュニティの取り組みなどを知ることを通じて、多様性へ理解を深め、価値観の違いに気付く力を育みます。

タイでできる 各県でのプログラム例



独自の歴史や文化を持つタイは教育旅行に適した観光素材や体験素材に恵まれ、これまでも日本から数多くの学校が訪問くださっています。これまで実施されてきたタイ各県で体験できるプログラムの事例をご紹介します。

D カンチャナブリー

文化・記憶の
継承としての
役割を考える

映画「戦場にかける橋」の舞台であるクウェー川鉄橋の存在でも知られる景勝地。北部では少数民族モン族の独自の文化に触れることができます。



体験ポイント

●歴史意識・倫理的観光を育む教育素材として学ぶ

第二次世界大戦中、日本軍はビルマ（現在のミャンマー）とタイを結ぶ軍用鉄道「泰緬鉄道」を建設しました。戦略上重要なこの鉄道には、多くの連合軍捕虜やアジア諸国の労働者が動員され、過酷な環境下での作業で多くの命が失われました。鉄道建設の象徴ともいえるクウェー川鉄橋は、映画「戦場にかける橋」でも知られています。現在、JEATH戦争博物館では、当時の収容所の様子や捕虜の遺品を通じて、戦争の現実と人権問題に触れることができます。こうした場を訪れることは、戦争の歴史を多角的に学び、平和と人権について考える他では得がたい経験になります。

●モン族の歴史とカンチャナブリーへの移住

モン族は東南アジアで最も古い民族の一つで、19世紀初頭、ビルマでの反乱鎮圧の影響によって多くがタイへ移住し、カンチャナブリーなどに定住しました。彼らは仏教を信仰し、独自の言語や文化を保持しながら、次第にタイ社会に溶け込みました。カンチャナブリー県サンクラブリー地区には、タイ最長の木造橋「モン・ブリッジ」があり、1986年から1987年にかけてモン族の労働者によって建設されました。この橋は、同地区とモン族のコミュニティをつなぐ「国際友好の道」としても知られています。モン族のコミュニティは、現在でも歴史的背景を持ちながらも独自の文化や伝統を守り続けています。彼らの生活や行事に触れ、多文化共生や歴史の多様性について学べます。

アクセス バンコクから車で約2～3時間。バスも運行。

A チェンマイ、チェンライ

多様な文化と自然に学ぶ。
サステナブルな社会を
考えるタイ北部



タイ北部のチェンマイとチェンライは、歴史ある仏教文化と多様な少数民族の暮らしが共存する地域です。自然との共生や持続可能な観光への取り組みも進んでおり、文化理解と環境意識を同時に学べる教育旅行先として注目されています。

体験ポイント

●エレファント・ケア体験

象と深い関わりを持つタイでは、チェンマイ郊外のエレファント・キャンプで象の健康管理やケア方法を学べます。正しいアプローチや健康チェック、入浴や食事の与え方など、動物福祉や持続可能な観光（サステナブル・ツーリズム）に関する理解を深める機会にもなります。地域経済への貢献も含め、自然と調和した観光の重要性について関心を持つきっかけになります。

●山岳民族の文化に触れる

タイ北部には、カレン族、モン族、リス族など多様な山岳民族が暮らし、それぞれが独自の言語や習慣、伝統文化を今も大切に守っています。実際に村を訪問し、暮らしや文化に触れる体験は、多文化共生の重要性を実感し、異なる価値観への理解を深める学びの場となります。教室では得がたい、リアルで実践的な異文化理解が可能です。

●コーヒー農園で地域再生と持続可能な未来を学ぶ

タイ北部は現在、高品質なコーヒー豆の産地として注目されています。その背景には、1969年にラーマ9世（故プミポン国王）が、健康被害をもたらしていたケシ栽培の代替として、コーヒーや果物の栽培を推進した王室プロジェクトの存在があります。地域と政府が協力して持続可能な農業へと転換してきた歩みは、環境保全、地域再生、社会課題の解決に向けた好例です。農園での体験を通じて、農業の役割やブランディングの視点も含め、持続可能な社会づくりを多角的に学べます。

アクセス バンコクから飛行機で約1時間20分。鉄道は1日約5本運行。

E アユタヤ

歴史と文化遺産を
守りながら学ぶ。
アユタヤでの探究的体験



約400年にわたりアユタヤ王朝の都として繁栄し、世界遺産にも登録されているアユタヤは、歴史・文化・国際交流の視点から多くを学べる貴重な場所です。荘厳な遺跡群や歴代王の離宮、今に伝わる伝統工芸など、体験を通して学びを深めることができます。

体験ポイント

●歴史公園をめぐるフィールドワーク

水運に恵まれ、かつて国際貿易都市として栄えたアユタヤの街並みや遺跡を、トゥクトックや自転車で巡りながら学ぶことができます。グループワーク形式の探究活動を通して、歴史の重層性や都市の構造を自ら考え、発見しながら理解することができます。

●日本との深い歴史的つながりを学ぶ

朱印船貿易が盛だった16～17世紀には、山田長政をはじめとする多くの日本人がアユタヤで活動し、最盛期には数千人規模の日本人町も形成されていました。現在の「日本人町跡」では、日タイ友好の歴史について知識を深めることができます。

●郷土工芸に触れる

アユタヤ王朝時代から伝承されてきた伝統工芸は、地域の文化を深く理解するための貴重な教材です。パンサイ民芸文化センターでは、シルク製品、陶器、手編みのカゴなどの製作過程を見学でき、伝統工芸の技術やその背景を学べます。この体験から工芸が文化の継承に果たす役割を実感できます。

アクセス バンコクからバスで約1時間半。鉄道利用も便利。

B スコータイ

歴史息づく世界遺産の
まちで、文化と共生する
知恵に出会う



13～14世紀にタイ族初の独立国家として栄えたスコータイ王朝の都であり、タイ屈指の世界遺産の街として知られています。郊外には織物工房やホームステイ施設なども。

体験ポイント

●世界遺産に学ぶ、歴史のダイナミズムと文化の継承

スコータイ歴史公園やシーサッチャナーライ歴史公園は、タイ初の王朝の面影を今に伝える世界遺産です。保存状態の良い寺院跡や仏像からは、当時の宗教・建築・政治の発展が読み取れ、歴史の流れや文化の継承を肌で感じられる貴重な学びの場です。

●農業体験や草木染めから自然と共に生きる力を学ぶ

農業が盛んなスコータイでは、農村ホームステイを通して田植えや収穫、草木染め、民芸品作りなどの体験が可能です。自然と調和した暮らしに触れることで食や環境への理解を深め、生きる力を育む実践的な学びに繋がります。

●伝統工芸に触れる文化体験

スコータイでは、サンカローク焼の窯跡や博物館の見学、泥染織物や金銀細工の工房訪問を通じて、受け継がれてきた伝統技術を実際に見ることができます。職人の技に触れる体験から、文化の継承やものづくりの精神への理解が深まります。

アクセス バンコクから飛行機で約1時間20分。
チェンマイからバスで約5時間半。

F バンコク

国際教育のハブとしての
側面を持つ
首都バンコクでの学び



伝統と革新が融合するタイの首都バンコクは、王室文化、都市開発、自然環境保全など多様な学びのフィールドがそろった大都市。地域交流から国際理解、環境教育まで、幅広いテーマを実体験できる教育旅行の拠点です。

体験ポイント

●都市のダイナミズムと歴史に触れる

急速に発展する高層ビル群と歴史ある王宮や寺院が共存するバンコク市内では、宗教・政治・文化が複雑に絡み合うタイ社会の多層的な背景を学ぶことができます。まちづくりや交通の仕組みにも注目することで、持続可能な都市のあり方を考える機会にもつながります。

●学校交流と文化体験で広がる視野

現地の学校や大学との交流を通して、生徒・学生は異文化理解やグローバルマインドを育むことができます。また、ムエタイの体験や観戦、マーケット見学などを通じて、伝統と現代が融合するタイの文化や経済の側面に触れられます。

●都市近郊で体験する環境学習

バンコク周辺では、マングローブ林の保全活動や水上マーケットの見学といったエコツーリズムが充実しています。人と自然の共生を学ぶと同時に、SDGsの実践（目標13「気候変動対策」、14「海の豊かさを守ろう」、15「陸の豊かさを守ろう」）を現地で体感する、かけがえのない体験になります。

C ナコンラーチャシーマー

悠久の時を
見つめてきた
遺跡から学ぶ



タイ東北部イサーン地方の中心都市ナコンラーチャシーマー（通称：コラート）は、古代クメール文明の遺跡群や豊かな自然を有する世界自然遺産カオヤイ国立公園の玄関口として知られています。歴史と自然が調和するこの地域には、過去と現在、そして未来をつなぐ持続可能な社会について考える、貴重な学びの場が広がっています。

体験ポイント

●クメール遺跡で歴史に触れる

ビマーン歴史公園には、アンコールワット様式の壮麗なクメール遺跡が残されており、国立博物館では古代クメール文化の美術品を見学できます。近郊のパノムワン遺跡では、東南アジアの古代文明の広がり、宗教や建築の歴史について理解を深められます。

●世界自然遺産で学ぶ生物多様性と自然保護

カオヤイ国立公園は、タイで最初に指定された国立公園であり、現在はユネスコ世界自然遺産に登録されています。滝や熱帯雨林が広がるこの地域では、ネイチャートレッキングやバードウォッチング、ナイトサファリなどを通じて、生態系の保全や野生動物との共生について学ぶ絶好の場です。

●伝統工芸を通じて文化の継承を学ぶ

粘土質の豊かな土地を活用した陶器生産が盛んなダーン・クイアン陶芸村では、手仕事によるものづくりの精神に触れることができます。また、バクトンチャイ・シルク村で伝統的なタイシルクの製作工程を見学することで、工芸を通じた地域文化の継承と発展に関する学びを得られます。

アクセス バンコクからバスで約4時間。

G プーケット

貿易拠点として
多彩な文化が息づく
タイ南部のリゾート



タイ南部のリゾート地プーケットは、豊かな自然環境に加え、かつて国際貿易の拠点として発展した歴史を持ち、多文化が共存する地域でもあります。美しいビーチや山での自然体験、農園や動物との触れ合い、歴史ある旧市街の散策を通じて、文化と自然のつながりを学べます。観光を超えた「体験型の学び」が実現できるエリアです。

体験ポイント

●ビーチと海の文化を体感する

白い砂浜が広がるプーケットの海では、年間を通じてシュノーケリングやビーチ散策が楽しめます。伝統的な漁に使われていた「ロングテールボート」など、地域に根ざした海の暮らしを感じることができ、地元の海産物を通じて、海とともにくまれた食文化に触れられます。

●動物との触れ合いを通して共生を考える

象の世話体験できるエレファント・ケア、動物福祉の視点から注目されるトラとの触れ合い施設「タイガーキングダム・プーケット」、テナガザル保護活動を見学できる「アグリカルチャー・ヴイレッジ」などを通して、人と動物の共生や環境保全について学ぶことができます。

●旧市街地に息づく多文化の歴史をたどる

プーケット・タウンの旧市街地には、中国系移民や19世紀のポルトガル統治時代の影響が色濃く残る建築様式「シノポルトガル建築」が多く見られます。歴史的な邸宅が博物館やカフェに生まれ変わるなど、文化遺産の活用と地域活性の取り組みを体感できる場所です。

アクセス バンコクから飛行機で約1時間20分。

タイの学校事情

タイの学校について、日本の学校との違いなどを知っておきましょう。

タイは2期制で最も暑い4、5月は夏休み

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
夏休み	前期：5月16日～10月10日					休み	後期：11月～3月				

6・3・3・4制で義務教育は9年間

小学校が6年、前期中等教育（中学校）が3年、後期中等教育（高校）が3年で義務教育は9年間。公立（国立）学校は教育費が無料です。高校卒業後は大学などに進学できます。タイには国立大学と私立大学があり、国立大学は入学の難易度が高いことで知られています。授業は主にタイ語ですが、一部は英語で行われるコースもあります。



タイでは先生は尊敬の対象

ワン・ワイクルー（先生を敬う日）

6月の第2木曜、先生に感謝の気持ちを伝える日。学校内でセレモニーが開かれ生徒が先生に花束を渡します。

タイの祝日↓



ワン・クルー（先生の日）

1月16日は国で指定されている先生の日。タイ国内の学校が休校になる、先生と生徒だけの祝日です。

先生へのあいさつ

タイでは年長者や年上は敬意を払う対象です。タイの学校で先生を見かけたら、丁寧にあいさつをしましょう。

- タイのあいさつ「ワイ」
手のひらをあわせ、花のつぼみのようにふくらませます。

- 目上の人へのワイ
親や先生などに頭を下げて親指を鼻先、人さし指を眉間につけます。



一般的ワイ

同年代や友達などには親指をあご先、人さし指を鼻先につけます。



タイ教育旅行に関するタイ国政府観光庁の支援内容

タイ国政府観光庁は、教育旅行を通して日本の生徒や学生がタイの文化や歴史、社会など多様な学びを得ることを強く望んでいます。皆さまの旅がより有意義になるように、下記のようなサポートを行っています。

- 事前学習のお手伝い
・タイへの理解に関するセミナー実施 ・パンフレットの提供
- 教育旅行に関する各種ご相談受付
- 視察旅行場所などのご紹介



グループ向け課外活動



Beyond the CLASS

タイ現地で外国人やタイ人も参加して実施している課外活動があり「Beyond the CLASS」と名付けています。グループ向けの地域文化体験や課外活動を、さまざまなテーマを設けて展開しているプログラムです。ここでいくつかを紹介しますので、詳しくは2次元コードからご確認ください（英語のみ）。



◀Beyond the CLASS

AROMATIC FARM 農場体験

「アロマティック・ファーム」（ラチャブリー）で有機ココナツの栽培、農場運営、工場までの生産過程を理解し、持続可能な農業の重要性を学ぶことができます。パイオ炭作り体験も楽しい経験に。



BAAN RIM KLONG HOMESTAY タイ料理

オーガニックのココナツ生産地として知られる「バーン・リムクローン・ホームステイ」（サムットソクラーム）で、タイ料理や伝統菓子作り、野菜収穫、川辺の生活が経験できます。ココナツやヤシの葉での工芸品作りも。手作りの楽しさと達成感を得ることができます。



BAAN RUAM THAI COMMUNITY クラフト体験

ミャンマーとの国境近くの「バーン・ルアム・タイ・コミュニティ」（プラチュアップキリカン）では、パイナップルの葉や象のフンから紙を作ったり、粘土染めや木彫りをしたり。国立公園でトラックに乗って野生の象や牛探しも。環境への意識が高まります。



UMBRELLA MAKING CENTRE 傘作り

タイ北部チェンマイの「アンブレラ・メイキング・センター」では、華やかな伝統工芸品である傘作りの歴史を学び、実際に制作します。受け継がれてきた技術を体験し、その価値を実感することができます。傘は、お土産にも喜ばれるアイテムで、記念品として持ち帰れます。



BAN NONG SAN COMMUNITY 藍染め体験

「バーン・ノンサン・コミュニティ」（サコンナコーン）では、綿織と藍染の布地作りを学べます。トラクターに乗っての地域散策や野菜収穫も。地域の人に教えてもらいながら、異文化間での協力の大切さ、コミュニケーション能力の必要性などを実感できます。



Highschool Educational trip in Thailand



これまで多くの学校が日本とタイで双方向の交流を展開してきました。観光や現地学校との交流を通じて異文化を体験したり、豊かな自然や伝統文化に触れたり。タイならではの多彩で豊富なプログラムから各校に合ったプランを選択でき、事前学習を含めて深い学びにつなげられるのも魅力です。ここではそんな実例の一部を紹介します。

タイ国政府観光庁では、ガイドブックなどの資料提供、事前オリエンテーション、プランの相談、旅行会社との連携など、細やかなケアで学校をサポートしています。

ケース 1

広島県立三原高校

高校生にとっては「英語を話す」よりも「異文化に触れる」ことが重要と修学旅行先をタイへ。世界を知り、海外に興味を持つことで必然的に外国語習得にも気持ちが向くようになります。海外での体験を通して日本の良さや恵まれた環境に対して感謝する心を持ってくれる点にも期待しています。

DATA 実施時期: 2025年1月14日～1月18日 実施日数: 4泊5日
訪問都市: バンコクと周辺都市
参加人数: 生徒142名、教員8名

プログラムのポイント

■学校交流

バンコク内の公立ホーワン学校を訪問して高校生や大学生と英語で交流。ジェスチャーを交えるなど互いに工夫をしながら積極的に会話をしました。



学校交流

■B&S研修

バンコク市街をカセサート大生によるガイドを受けながら巡るB&S研修をグループに分かれて体験。大学生と生徒がとても仲良くなり、解散時は別れを名残惜しんでいました。帰国後もSNS等で交流が続いている生徒もいて「海外に友達ができたと大変喜んでいました。」

学校からのコメント

タイを選んだのは親日国で比較的治安がよく、世界遺産や観光名所が多く、異文化を感じるポイントが充実しているので。東南アジアということで、渡航前は治安や衛生面について不安に感じている生徒も多かったです。現地でバンコクの発展した様子に圧倒され、日が経つにつれて慣れると全力で楽しんでいました。危機管理意識も高まったようです。



広島県立三原高校
2学年主任
嶋田奈弥 教諭

行程

【バンコクでの宿泊施設】
THE TWIN TOWERS HOTEL BANGKOK
(4泊)

1/14(火)

6:50 学校→広島空港
7:30 広島空港→台湾・桃園空港(～11:25到着)
13:50 台湾・桃園空港→
タイ・スワンナプーム国際空港(～16:45到着)

18:00 バンコク市内
夕食: タイスキ料理 その後ホテルへ

1/15(水)

8:15 ホテル出発
午前: 学校交流
13:00 公共交通機関でホテル着
午後: B&S研修
夕食: リバークルーズでビュッフェ

1/16(木)

午前: バンコク市内観光
ワット・プラ・ケオ&王宮、ワット・ポー、ワット・アルン
昼食: ビュッフェ
午後: バンコク近郊クラス別研修
夕食: 民族舞踊鑑賞付

1/17(金)

終日: コース別研修
◆世界遺産アユタヤコース
◆「カンチャナブリー」日帰りコース
◆マーケット見学・象乗り体験コース
◆フォトジェニックコース

夕食: アジアティーク・ザ・リバー・フロント

1/18(土)

7:00 ホテル出発
10:55 スワンナプーム国際空港→台湾・桃園空港(～15:25到着)
17:20 台湾・桃園空港→広島空港(～20:35到着)
22:10 学校

■広島県立三原高校

広島県三原市宮沖4-11-1
<https://www.mihara-h.hiroshima-c.ed.jp>

ケース 2

筑紫女学園高等学校

「仏陀(釈尊)・浄土真宗の教えに基づく人間教育」を建学の精神とする同校。日本とは異なる仏教文化について知ることができたのも学びになりました。

DATA 実施時期: 2024年12月 実施日数: 3泊5日
参加人数: 生徒120名、教員8名

プログラムのポイント

■学生交流、バンコクでショッピング

バンコク内にあるキングモンクット王工科大学トンブリー校を訪問して英語で交流。同年代で難易度の高い研究をしている様子などを見て刺激を受けました。一方、バンコク中心部の巨大ショッピングモールでショッピングを満喫しました。

■自然環境、寺院見学、象との触れ合い

タイ独自の仏教文化を学ぶ寺院巡りのほか、世界遺産のアユタヤ見学を組み入れました。



バンコク3大寺院見学



アユタヤ日帰り観光



象との触れ合い



象乗り体験

行程

【バンコクでの宿泊施設】
ROYAL ORCHID SHERATON (3泊)

12/5(木)

9:30 福岡空港国際線ターミナルビル4F集合
11:40 福岡空港→タイ・スワンナプーム国際空港(～15:40到着)

18:00 ホテル到着
夕食: ビュッフェ

12/6(金)

9:00 ホテル出発
午前: 学生交流
キングモンクット王工科大学トンブリー校で英語での交流

昼食: ビュッフェ

午後: キングモンクット工科大学
バーンクンティアン校見学

夕食: 中華料理orタイスキ(2分割)

夕食後、ナイトマーケット見学(希望者のみ)

12/7(土)

終日: アユタヤ日帰り観光

◆バンパイン宮殿
◆3つの寺院巡り
(ワット・ヤイチャイモンコン、ワット・マハタート、ワット・プラシーサンペット、アユタヤ日本人町跡)
◆象乗り体験(希望者制)

夕食: 中華料理orタイスキ(2分割)

12/8(日)

9:00 ホテル出発
午前: バンコク3大寺院見学
(ワット・ポー、王宮、ワット・アルン、エメラルド寺院等)

昼食: 飲茶料理

午後: ワットバクナム、アイコンサイアムでショッピング

夕食: タイ海鮮料理

夕食後、空港へ移動

12/9(月)

1:00 タイ・スワンナプーム国際空港→福岡空港
8:10 入国手続き(9:00頃解散)

学校からのコメント

福岡市から直行便があり、他国と比較して同金額で高いランクのホテルに宿泊できるのがタイを選定した理由の一つ。バンコク市内でのショッピングを含めた全行程、全員で移動・行動したので安全面での心配もなく、生徒は終始楽しく過ごしていました。特にアユタヤで120名全員が参加した象乗り体験は「一生の思い出になる」という感想でした。外国に行くことで日本を別の角度から認識できるのは、将来を考える一助になるのではないのでしょうか。

筑紫女学園高校 松尾優美 教諭

■筑紫女学園高校

福岡市中央区警固2-8-1
<https://chikujo.ed.jp>

ケース 3

東京学芸大学

附属高校

東京学芸大学附属高校はタイから国費留学生を 40 年間にわたって受け入れてきたなど関係性が深く、2004年、2018年、2019年、2024年とタイへの学習旅行を実施しています。タイの社会や文化、歴史を理解しつつアジアに基軸を置いたグローバルな視点を養い、世界の平和と人類の幸福に貢献する資質と態度を養うことを目的としています。

DATA

実施時期：2024年11月11日～15日（1 班）、12日～16日（2 班）
 実施日数：5 日間 訪問都市：バンコク
 参加人数：生徒299名、教員15名

プログラムのポイント

■学校交流、企業訪問

長年タイの留学生を受け入れてきた関係で、多くの卒業生の多大な協力・支援のもと、多彩な学校交流や企業訪問のプログラムを実施できました。特に学校交流ではサイエンスの発表をはじめ、学校ごとに個性あるプログラムが組めて大変有意義でした。



学校交流での研究発表



交流会に参加してくださった
在バンコク同窓生の皆さん

■B&S研修

生徒たちの希望に沿ってバンコクのボランティアの学生が市街を案内しました。別れ際にはどのグループもとても名残惜しそうにしていた様子が印象的でした。



旧泰緬鉄道見学



学校交流でのムエタイ体験

【バンコクでの宿泊施設】 THE TWIN TOWERS HOTEL BANGKOK (4泊)		
行程	第1班 (A・B・D・F組)	第2班 (C・E・G・H組)
11 / 11(月)	朝出発 夕方到着	
11 / 12(火)	班別研修(B&S)	朝出発 夕方到着
11 / 13(水)	学校交流、企業訪問(2班合同)	
11 / 14(木)	スタディツアー(2班合同)	
	夕方出発	
11 / 15(金)	朝帰国	班別研修(B&S) 夕方出発
11 / 16(土)		朝帰国

学校からのコメント

生徒は生き生きとした様子で多彩なプログラムにチャレンジし、大いに楽しんでいました。海外に行くための事前学習を経て、実際にタイでの学習旅行を経験したことで、国際理解やコミュニケーションを取ることへの意識も高まったのではないかと感じます。

海外修学旅行は費用や人的コストはかかりますが、現地に行くことでしか得られない学びがあり、それは今後成人を迎え社会に出る生徒にとって価値ある体験となります。

なお、学習面の充実だけでなく、海外旅行では「安心・安全」な実施が最も大切です。現地でのトラブル（けがや病気発症なども含め）に関して、起こってしまった際にどう対処するかをしっかりと準備しておく必要があり、関係機関のサポートも重要だと考えます。

学習旅行担当 前田曜子 教諭



企業（Work Point社）訪問で生放送に出演

■東京学芸大学附属高校

東京都世田谷区下馬4-1-5
<https://www.gakugei-hs.setagaya.tokyo.jp>

ケース 4

関西大学高等部

関西大学高等部は2年生を対象に研修旅行を実施しています。コロナ禍前の2019年まではハワイに行っていましたが、2025年はアジアに目を向け、タイを研修旅行先の国に選択しています。

DATA

実施時期：2025年1月25日～1月31日
 実施日数：4 泊 7 日 訪問都市：バンコク
 参加人数：生徒150名

プログラムのポイント

■学校交流

関西大学の協定校パンヤピワット経営大学（Panyapiwat Institute of Management=PIM）の附属中学校（SATIT PIM）で学校交流を実施。大ホールに集まり、お互いの学校紹介の後、SATIT PIM校が6つのセクションを設けタイを紹介した後、関西大学高等部も同様に日本の食べ物や遊び、アニメなどを紹介し、交流活動を行いました。



SATIT PIMで学校交流



交流活動を展開

■体験プログラム

探究学習で培った多面的なものの見方や問題発見力などを活用します。クロンドゥーイ・スラムにあるプラティープ財団の取り組みも見学。環境問題や貧困問題と人々の暮らしについて、現地の実情を踏まえて深く考えました。



プラティープ氏の講義



クロントゥーイのスラムを見学

【バンコクでの宿泊施設】 THE TWIN TOWERS HOTEL BANGKOK (4泊)		
行程		
1 / 25(土)	0:45 関西国際空港発	【機中泊】
1 / 26(日)	5:00 スワンナプーム国際空港着 チェックイン－休息－昼食 バンプー自然学習センターでマングローブ植樹 夕食：タイ古典舞踊鑑賞&タイ料理	
1 / 27(月)	午前：関西大学協定校 Panyapiwat Institute of Management (PIM) 訪問 午後：アユタヤ遺跡訪問 夕食：タイしゃぶ	
1 / 28(火)	午前：プログラム①SDGs活動 午後：プログラム②プラティープ財団訪問 夕食：中華料理	
1 / 29(水)	午前：プログラム③寺院 or 市場など選択研修 午後：プログラム④文化体験選択 夕食：海鮮料理	
1 / 30(木)	終日：バンコク市内 B&S 研修 夕食後、21:30 スワンナプーム空港着	
1 / 31(金)	0:55 スワンナプーム国際空港発	【機中泊】
	8:10 関西国際空港着 9:00 解散	

学校からのコメント

関西大学と協定を結んでい海外大学に、タイのパンヤピワット経営大学（PIM）があります。2017年にこのPIMの職員が来校し、新たに附属学校

（SATIT PIM）を開校したので、ぜひ本校と交流したいとの申し出がありました。私がSATIT PIMを訪問した際、その生徒は非常に礼儀正しく元気に挨拶してくれました。また、英語でも会話することができ、授業に積極的に参加していました。「この魅力的な学校とぜひ親交を深めたい!」と、強く感じたことを覚えています。そして2025年1月、念願のタイ研修旅行が実現しました。本校の生徒はSATIT PIMとの交流に加え、仏教寺院の見学、ムエタイ体験、プラティープ財団の幼稚園等の訪問など、タイでしかできない異文化体験と学習ができました。今後も、このタイ研修旅行をさらに発展させ、SATIT PIMとも末永く交流していきたいと思います。

■関西大学高等部

大阪府高槻市白梅町7-1
<https://www.kansai-u.ac.jp/senior>

28、29日を2クラスずつ入れ替え



関西大学 中等部 高等部
 松村湖生 校長

University Educational trip in Thailand



各大学では、さまざまな内容の海外研修が取り組まれています。留学制度を設けている大学も多く、その期間も短期、長期など選択肢の幅が広がっています。

このページでは、留学ではなく、大学の授業の一環でタイへの研修を実施されたケースを取り上げ、各大学の先生方に「なぜタイを選ばれたのか」などを伺いました。先生方の専門分野に沿った、高度な学びにつながる研修の実例を紹介します。

ケース1 京都産業大学 現代社会学部 広告実践演習

プログラムのポイント

ポンサピタックサントーピヤ教授による、現代社会学部の専門教育科目「広告実践演習」では、広告やマーケティング分野における基本的な理論や概念に基づいて、広告キャンペーン企画制作のプロセスを理解し、各自が広告キャンペーン企画を実践することを授業の目標にしています。

2024年度にはタイ国政府観光庁より、タイ観光における大学学生市場の強化のための施策（PR）の課題を提供し、現代社会学部、経営学部、外国語学部の3名の発表優秀者がタイモニターツアーとしてチェンマイで研修しました。

担当教授のコメント

タイは大学生にとって学びと楽しみを両立できる魅力的な国です。仏教文化や世界遺産を通じた異文化体験、手頃な物価、親日的な環境があります。都市と自然の両方を楽しめ、屋台文化やタイ料理も体験でき、英語やタイ語を使う機会も多く、国際感覚を養えます。エコツーリズムや伝統文化体験も充実し、比較的安全な環境で安心して過ごせるため、一生の思い出を作るのに最適です。本大学では、ゼミ活動の一環として、毎年夏休みにタイで研修を実施しています。

タイでの教育研修に向けては、英語や基本的なタイ語を学び、現地の文化やマナーを理解することが重要です。気候に合った服装や必需品を準備し、旅行保険や資金計画も整えます。訪問先のリサーチや目標設定を行い、充実した学びと経験を得る準備を進めます。



現代社会学部 国際交流センター長
ポンサピタックサントーピヤ 教授 Piya PONGSAPITAKSANTI



タイ企業を訪問



タイの大学を訪問



バンコクやアユタヤの寺院を見学

■ 京都産業大学
京都府京都市北区上賀茂本山
<https://www.kyoto-su.ac.jp>

ケース2

名城大学 外国語学部 国際専門研修

プログラムのポイント

外国語学部3年生の選択科目で海外研修を実施。非英語圏に身を置くことで英語が必ずしも万能ではないこと、同時に非言語コミュニケーションが持つ大きな可能性を認識してもらうのが目的です。

例年訪れている東北タイでは伝統的な価値観やライフスタイルが多く見られ、学生は人と人の距離感や優しさのあり方に強い印象を受けています。今後は学生が自分でデザインしたプランを体験するなど、より自由な研修を展開する予定です。



コーンケン大学でタイ語学習をしたほか日本語学科の学生に書道のワークショップを実施



1泊2日でシラー村で村落滞在を実施。泥の中に入り田植えを体験



コーンケン大学での研修初日に市内観光を行い街のモニュメントであるワット・ノンウェーンを訪問

担当教授に伺いました！



タイ国政府観光庁
公式マスコットキャラクター
ハッピーちゃん



外国語学部
国際英語学科
津村文彦 教授

―研修場所にコーンケンを選ばれた理由は？

1999-2001年にコーンケンに滞在して文化人類学のフィールド調査をしました。農村では伝統的な暮らしをしながらも、現代的な要素が入ってどんどん変化している力強さに圧倒されました。大学で教えるようになってから、学生にもそこでいろいろ体験して学んでほしいと思ったのです。

―タイに興味を持たれたきっかけは。

興味を持ち始めたのは大学院に入ってから。人類学を学び、特に周辺の宗教現象、例えばアニミズムや妖怪などに興味がありました。人類学の研究では、海外での長期のフィールドワークが不可欠だったので、タイの精霊信仰について研究することに。タンバイアという人類学者によるウドンターニーでの研究に触発されたのをきっかけに、私も東北タイを調査地に選びました。知人を介して紹介してもらい、1999年8月にコーンケン大学を訪れ、そこでまずタイ語を勉強して村落調査の準備をしました。

―タイにどんな魅力を感じますか。

タイ語を学んでいた教室を掃除していたおばさんが「私の村にはピーポーブ（悪霊の一種）が出て困っている！」と話すのをきっかけに、おばさん夫妻の住む村を訪ね、2年間のフィールド調査につながりました。外国人が村を突然訪れても皆温かく迎えてくれ、本場のおいしいイサーン料理をご馳走してくれました。

この時の研究は書籍にまとめ、精霊ピーという不可思議な存在が、タイの人々の暮らしの中で語られ続け、どんな現実を作りだしているかを描いています。「タイでは仏教が信仰されています」という言葉にとっても収まりきらない、色濃く多様な宗教生活があり、その魅力について今も研究しています。

学びのポイント

- 多言語を用いた非英語圏での国際フィールドワーク
- イサーン（東北部）を研修地として選出
- 協定校であるコーンケン大学でタイ語学習と日タイ文化比較学習を実施
- コーンケン県ムアン郡シラー村での農村ホームステイ



シラー村で村の人々に教わりながら竹串に糸を巻き付けて「トン」と呼ばれる装飾品を作る



早朝に托鉢の僧侶にお布施。村の人に教わりながらご飯やおかずを鉢の中に入れる

■ 名城大学
名古屋市中天白区塩釜口1-501
<https://www.meijo-u.ac.jp>

阪南大学

国際学部清水ゼミ

研修旅行

プログラムのポイント

清水ゼミでは産学連携の一環でタイ国政府観光庁（TAT）と連携し、日本人の訪タイを促進するプロモーションについて研究しています。現場から学ぶため2014年から毎年3年生のゼミ学生を中心に夏休みに現地研修旅行を実施。ゼミ内で「もっと地方都市の魅力を紹介すべき」という声上がり、2024年9月にはチェンマイへ。チェンマイの魅力発信について研究しています。



TAT本庁で研究内容を発表



TAT大阪事務所でのインターン研修

学びのポイント

- タイの観光マーケティング戦略を学ぶ
- 持続可能な観光目標「STGs」の施策を学ぶ
- 現地での実体験を大切に

担当教授のコメント

タイは親日国であり、仏教寺院などの歴史・文化を始め自然、食など観光資源が豊富で魅力的。大都市と地方の両方を短期間の滞在で体験できます。比較的安全で物価も高くなく、リーズナブルなホテルもあり、ゼミ研修旅行には最適と感じています。



国際学部 国際観光学科
清水苗穂子 教授

学びのポイント

- 日本の観光業界をけん引する“マネジメント人材”を教育
- タイの協力ホテルでの実践的な実習
・ホテルの全体案内、部屋・施設見学
・フロント業務、ハウスキーピング実習
・調理デモンストレーション、テーブルエチケット実習
・セールス&マーケティング基礎講座

担当教員のコメント

少子高齢化に反比例し、日本の観光業界では多くの人材を必要としています。そこでタイ実習を通じ、実務レベルで即戦力となる観光人材を育成し、将来観光業界を牽引する「マネジメント人材」の教育に力を入れています。タイでの実習は大学卒業後のキャリアパスを志向する上でも大切な実習となっています。



国際学部国際言語文化学科 副学部長
国際観光マネジメント専攻・コーディネーター
高橋逸平 講師

梅光学院大学

国際学部

ホテル実習・観光実習

プログラムのポイント

2022年から毎年、夏休み期間の9月に1週間～10日程度でタイへ。観光関連産業への就職希望者が多いことから「ホテル実習」「観光実習」を実施しています。観光立国でありインバウンド先進国であるタイで観光の実情を体感的に学び、世界的にホスピタリティに定評のあるタイのホテルで実務を体験します。



ホテルでの実践実習



TAT本庁を訪問

担当教授のコメント

本プログラムに参加することで、香川の地域理解とグローバルマインドの醸成、将来教員になるための資質能力の向上が期待できると考えています。



教育学部 副学部長
高木由美子 教授

香川大学

教育学部

研修旅行

プログラムのポイント

教育学部では、地域の実情に通じたグローバル人材の養成が必要とされ、学校現場におけるグローバル教育人材の育成は重要です。タイの学術交流協定校であるチェンマイ大学との連携のもと実施している海外研修プログラムに参加する学生は、1年かけて、附属学校の生徒のTAや現地でのインターンシップ活動の準備、紹介用の動画作成などに取り組みます。



小学生との交流

学びのポイント

- 提携校チェンマイ大学との学生交流
- コーヒーファームを見学
- エレファントケアを体験
- TATチェンマイオフィスで研究発表

担当教授のコメント

タイを研修先に選定する理由は、世界を代表する観光先進国で最新の観光に触れることができるのはもちろん、アクセスや費用面での負担が比較的少なく学生が参加しやすい、体験やアクティビティのメニューが充実していて目的に応じて多彩なプログラムを設定できる、現地での交通利便性や治安の面から学生が現地で行動しやすい、などさまざま。大学の研修旅行先として最適なデスティネーションだと思います。

地域共創学部 観光学科 大方優子 教授

九州産業大学

観光学科

研修旅行(6泊7日)

プログラムのポイント

地域共創学部観光学科では、実体験を通じて観光を学ぶことを目的に、毎年海外観光研修を実施しています。今回訪れたチェンマイでは、同大の提携校であるチェンマイ大との交流のほか、タイ国政府観光庁（TAT）の紹介を通じた文化体験や参加やTATチェンマイオフィス訪問など、通常の観光旅行では体験できない貴重な機会を得ました。



コーヒーファーム



エレファントケア

玉川大学

観光学部

研修旅行(6泊7日)

プログラムのポイント

現地プログラムでマヒドン大学インターナショナルカレッジの受け入れチームと交流。チームの一員として参加している学生ヘルパーがプログラム後にも観光案内するなど学生同士のコミュニケーション、交流を円滑にしました。寺院見学や民族衣装体験など多彩な文化にも触れました。



ムエタイ体験

担当教授のコメント

安心・安全を第一に考えた場合、タイは間違いなく有力な候補。学生はさまざまな面でタイの文化や人々の温かさに触れ、貴重な学びを得ました。近年発展を遂げる観光産業やビジネス環境も現場で学ぶことができ、学生は「またタイに来たい」「もっと深く学びたい」と口をそろえていました。それほど、タイは学びと体験の両方が得られる国です。



観光学部
法島正和 教授

梅光学院大学

山口県下関市向洋町1-1 <https://www.baiko.ac.jp/university>

香川大学

香川県高松市幸町1-1 <https://www.kagawa-u.ac.jp>

玉川大学

東京都町田市玉川学園6-1-1 <https://www.tamagawa.jp/university>

■基本情報

国名	タイ王国 (タイ語名: プラテート・タイ)	服装	一年を通して日差しが強く高温多湿なので通気性のよい服を推奨。ただし山岳部では朝晩が冷え込むこともあります。またデパートやレストランではエアコンが効きすぎている場合もあるので羽織るものが1枚あると便利です。一部の寺院ではタンクトップやホットパンツなど肌を露出した服装、かかとのないサンダルでは入場できません。
首都	バンコク (タイ語名: クルンテープ・マハナコーン)	電気	電圧は交流220V (50Hz)で、プラグはBF、Aタイプ、Cタイプ。主要都市のほとんどのホテルが日本と同じAタイプに対応しています。
国旗	中央の紺は国王、白は宗教、赤は国民と国家を象徴しています。現在の国旗は1917年に定められました。	チップ	タイにはチップの習慣があります。ホテルでは荷物を運んでくれたボーダーやハウスキーパーに20パーセント程度、マッサージでは料金の5〜10%を目安に払いましょう。
地理	東南アジアの中心に位置し、ミャンマー、ラオス、カンボジア、マレーシアと国境を接しています。	電話番号システム	●タイ国内で電話をかける場合 市内、市外を問わず0から始まる9桁の数字 (携帯は10桁) をダイヤル ●タイから日本にかけの場合 国際電話認識番号001+その他007、008、009+日本の国番号81+一般及び携帯電話番号の頭の0を除く相手先の電話番号
面積	国土面積は約51万4000km ² 。 日本の約1.4倍です。	いざという時	●ツーリストポリス コールセンター 局番なし 1155(英語・タイ語) ●警察 局番なし 192 ●日本国大使館領事部 02-207-8500、02-696-3000
言語	タイ語 観光地では英語が通じます。	フライト時間	日本ーバンコク間 約5〜7時間
人口	6593万人 ※2025年現在	時差	マイナス2時間
民族	タイ族約85% 中華系約10% ほかにモン・クメール系、マレー系、ラオス系、インド系、山岳少数民族などが暮らしています。	パスポート・ビザ	パスポートの必要残存期間はタイ入国時に6カ月以上と国際規定で定められています。 日本国籍でタイ入国後60日 (59泊60日) 以内の観光目的の滞在の場合、日付の入った (FIX) 往復航空券を所持していればビザなしで入国できます。 60日以上滞在を予定している場合、観光目的以外で入国する場合は事前にタイ王国大使館・領事館でビザを取得してください。 ■在東京タイ王国大使館 www.thaiembassy.jp 一般 TEL 03-5789-2433 VISA課 TEL 090-2529-7787 ■タイ王国大阪総領事館 www.thaiconsulate.jp TEL 06-6262-9226 ■在福岡タイ王国総領事館 www.fukuoka.thaiembassy.or.jp オフィス TEL 092-739-9088 領事部 TEL 092-739-9090
国花	ゴールデンシャワー タイ語名: ラーチャブルック=王の樹	気候	熱帯性気候 年間を通じて平均気温27〜30度
国歌	プレーン・チャート (タイ王国国歌) 駅やバスターミナルなど公共機関では毎朝8時と夕方6時の2回流れます。その間、人々は直立不動で敬意を表します。	季節	1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 乾期 暑期 グリーンシーズン (雨期) 乾期
通貨	タイ・バーツ 2025年5月現在 1バーツ=約4.3円	医療	バンコク、プーケット、チェンマイには日本語が通じる病院があります。詳しくは各エリアのガイドブックをご参照ください。

タイ国政府観光庁日本事務所

- 東京事務所 〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-7-1 有楽町電気ビル南館2F
TEL : 03-3218-0355 FAX : 03-3218-0655 info@tatky.com
- 大阪事務所 〒550-0013 大阪府大阪市西区新町1-4-26 四ツ橋グランドビル
TEL : 06-6543-6654, 06-6543-6655 FAX : 06-6543-6660 info@tatosa.com
- 福岡事務所 〒812-0027 福岡市博多区下川端町2-1 博多リバレインイースト サイト11F
TEL : 092-260-9308 FAX : 092-260-8181 info@tatfuk.com

詳しくは「タイ国政府観光庁」を検索
(日本語) <https://www.thailandtravel.or.jp>
(英語) <https://www.tourismthailand.org>



ソーシャル
メディアで
タイの魅力を
発信中



メルマガの
登録は
こちらから

